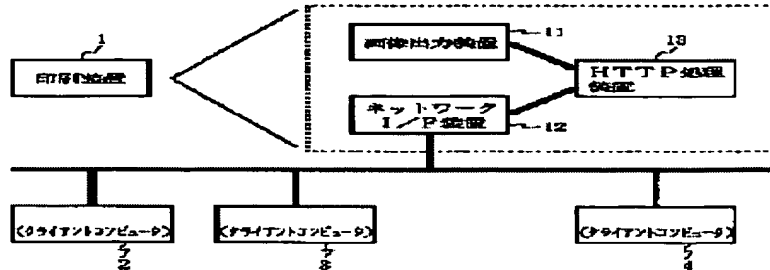


MicroPatent® Worldwide PatSearch: Record 1 of 1



JP11316658

PRINTER

RICOH CO LTD

Inventor(s): ;MITSUI KENJIRO

Application No. 10137684 , Filed 19980502 , Published 19991116

Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a printer with which various settings of printing and network protocols are standardized and installation of a printer driver in each computer is not required.

SOLUTION: A printer 1 provides a network address and a URL for HTTP from a network interface device 12 and an HTTP processor 13, identifies them from computers 2, 3 and 4 through a WWW browser of a client or the like when connected to a network and controls them. This browser can display the HTML and is not limited to Mosaic or Netscape. Since the computers 2, 3 and 4 control the printer 1 through the WWW browser any type of HTTP can be controlled in so far as it is controlled by the HTTP processor 13 independently of the type of its own computer or so to be used.

Int'l Class: G06F00312 B41J02938 H04N00100

MicroPatent Reference Number: 000657942

COPYRIGHT: (C) 1999 JPO

⑫ 公開特許公報(A)

平1-136658

⑬ Int.Cl.⁴

A 61 H 15/00

識別記号

3 1 0

庁内整理番号

H-7242-4C

⑭ 公開 平成1年(1989)5月29日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 健康器

⑯ 特 願 昭62-296365

⑰ 出 願 昭62(1987)11月25日

⑱ 発 明 者 高 村 大 五 福島県いわき市小名浜上神白字館下73

⑲ 出 願 人 高 村 大 五 福島県いわき市小名浜上神白字館下73

⑳ 代 理 人 弁理士 和 田 肇

明 細 書

1. 発明の名称 健康器

2. 特許請求の範囲

(1) 適当な巾および長さを有するスロープ板体の表面のほぼ全面に適当な大きさの多数のボールを回転自在に敷設して成る滑りベッドを備えたマッサージ器本体をシーソ状に運動させるべく揺動自在に支持させて配設し、上記マッサージ器本体を駆動手段でシーソ運動させることにより、人体を上記滑りベッド上で往復滑り移動させるように構成したことを特徴とする健康器。

3. 発明の詳細な説明

<発明の背景>

本発明は、一般的には指圧作用とマッサージ作用により血液の循環を促進する健康器、さらに詳しくは、自己の体重を利用して身体を自動的に指圧、マッサージする健康器、さらに一層詳しくは、人体を仰向、横臥、腹這等、任意の姿勢で滑りベッドを滑らせながら往復移動させることにより、この滑りベッド上の人体の体重を利用して、自分

の身体を自動的に指圧、マッサージする健康器に関するものである。

従来、各種の自動指圧器やマッサージ器が開発されている。しかしながら、これら従来品は、いずれも身体の一部を部分的に指圧、マッサージするように構成したもので、身体を全体的に指圧、マッサージし得るものは未だ開発されてない。また、従来品は、いずれも押圧体等を振動させる等により、この押圧体等の振動等の運動を身体に伝達して指圧、マッサージするように構成したもので、自己の体重を利用して指圧、マッサージし得るものは未だ開発されてない。

<発明の目的>

本発明は上記のような点に着目して発明したものであって、本発明の目的の1つは、自己の体重を利用して身体を自動的に指圧、マッサージし得る斬新的な健康器を提供するにある。

本発明の目的の他の1つは、自己の体重を利用して身体を全体的に指圧、マッサージし得る健康器を提供するにある。

本発明の目的の他の1つは、人体の逆立ち効果による健康促進も兼ね備えた健康器を提供するにある。

<発明の構成>

上記の目的を達成するための本発明の構成を、実施例と対応するオ/図～オ6図を用いて説明すると、本発明は、適当な巾および長さを有するスロープ板体5の表面のほぼ全面に、適当な大きさの多数のボール6を回転自在に散設して成る滑りベッド4を備えたマッサージ器本体3をシーソ状に運動させるべく揺動自在に支持させて配設し、マッサージ器本体3を駆動手段でシーソ運動させることにより、人体αを滑りベッド4上で往復滑り移動させるように構成したことを特徴とするものである。

<発明の作用>

上記のように構成した本発明は次のように作用する。マッサージ器本体3は駆動手段により所定の速度(この速度は調整可能)でシーソ状に運動する。そこで、マッサージ器本体3を水平状態

で停止させ、指圧、マッサージを受けようとする者が滑りベッド4上に所望の姿勢、たとえば、オ6図(ハ)のように、仰向の姿勢で横になる。この状態で駆動手段を始動するとマッサージ器本体3は水平状態から、たとえばオ6図において右下りに傾き始めるので、滑りベッド上の人体αは同図右方向に滑るように作用を受ける。そしてベッド4の傾斜角度が大きくなると、人体αはボール6との接触摩擦によりボール6をベアリングのように回転させながらオ6図(ハ)のように右方向へ滑り降りるが、この滑り移動中において、人体αの体重はスロープ板体5のほぼ全面に散在してあるボール6に掛けられているため、身体のボール6との接触部側は至る所を限なく、しごかれて指圧、マッサージされる。これにより、血液の循環を促進されることになる。次いで、マッサージ器本体3はオ6図(ハ)のように適当角度に傾斜(この傾斜角度は調整可能)して一旦停止した後、上記と逆の方向(オ6図において左下り方向)へ傾き始める。そして、マッサージ器本体3が水平状態を通過す

- 3 -

ると、ベッド4上の人体αはオ6図左方向に滑るように作用を受け、ベッド4の傾斜角度が大きくなると、上記と同様にボール6を回転させ、身体に至る所を限なく、しごかれて、指圧、マッサージをされながらオ6図(ハ)のように左方向へ滑り降りる。そして、オ6図(ハ)のように人体αの頭部が下向きになる方向へ滑り降りると、この課程において、人体は逆立ち効果の作用を兼ね受けることになる。

このように、マッサージ器本体3をシーソ状に繰返り運動させることにより、ベッド4上の人体はその者自身の体重を利用して、身体に至る所を意のまま自由に限なく、しごかれて指圧、マッサージされる。

<実施例>

以下、図面を参照して本発明の実施例について説明する。オ/図～オ6図は本発明の1実施例を示す健康器である。これらの図において、1は取付ベースで、ベース1の中央部における両側(オ/図において前後側)には適当な高さの軸受体2、

- 4 -

2が相対して立設されている。

3はマッサージ器本体を示し、マッサージ器本体3は適当な巾および長さを有するスロープ板体5の表面のほぼ全面に適当な大きさの多数のボール6を回転自在に散設して成る滑りベッド4を備えて成るもので、実施例の本体3は、金属製の角パイプ材等で造った長方形の枠体7にスロープ板体5の長手方向の両端をロープ等8で結着固定して成っている。スロープ板体5の素材は特に限定されるものではないが、潤滑性が良く、かつ、適当の可撓性を備えた強靱なポリプロピレンやアクリルその他のプラスチック材が適している。但し、この材質は限定されるものでないこと上述したとおりである。

スロープ板体5の巾および長さは任意に定められるものであるが、実施例では、約70㎝(巾)×約4m(長)のものを採用してある。また、ボール6は身体に至る所に当るようにスロープ板体5のほぼ全面に適当に配分させて散設するもので、実施例では直径約15㎜のステンレスやプラステ

プラスチック製のボール6を約2,200個配設してある。そして、各ボール6は回転自在に配設するもので、実施例では次のように構成してある。即ち、オ6図に詳細に示すように、スロープ板体5にボール6の数に対応する多数の孔9を開設すると共に各孔9の下部における縁部にリング板状の受座10を接着等で固着してある。11はボール6の径に対応させると共にボール6を半分より若干多く回転自在に嵌合させ、かつ、嵌合したボール6が脱抜しないように形成した半球状のボール嵌合孔12を有し、嵌合孔12の周縁には環状フランジ13を突設して成るボール受体で、スロープ板体5の各孔9にはフランジ13を受座10で支承させてボール受け体11を嵌合配設し、接着等によりフランジ13を受座10に固着してある。14はボール受け体11の嵌合孔12内の底部に回転自在に設けた小径のボールで、嵌合孔12内に嵌合したボール6は下端は上記小径のボール14に接触させるように構成してある。これによりボール6は一層円滑に回転するようになる。

- 7 -

も良く、このように構成すると、不使用時にはコンパクトに保管することができる。

実施例のマッサージ器本体3は上記のように構成され、これをシーソ状に運動させるべく揺動自在に支持させて配設するもので、実施例では、オ/図に示すように、マッサージ器本体3の枠体7の中心部の下部両側に取付体19、19を相対して固設し、この取付体19を介して枠体7をベース1の軸受体2、2に枢軸20で回転自在に軸支させて適当な高さに配設してある。これにより、マッサージ器本体3は軸20を支点としてシーソ状に揺動自在になっている。

また、マッサージ器本体3は、駆動手段でシーソ運動させるように構成するもので、実施例では次のように構成されている。即ち、21はベース1上の中心部に配設され、モータによりドラムを正逆回転するように構成した巻取・繰出機、22a、22bは一端を枠体7の両端側下部に接続したワイヤーロープ等のロープで、ロープ22a、22bの他端側は案内ローラー23、23等を介して巻取・繰出

実施例のように構成すると、ボール6の回転性が良いと共に製造作業性も良くなるが、実施例以外の任意の構成によりボール6を回転自在に配設しても良いものである。

15は枠体7の上面における長手方向の両端両側部に相対して立設した取付杆、16は相対設した取付杆15、15間に架橋してマッサージ器本体3の長手方向の両端に配設した安全規制体で、該安全規制体16はベッド4を滑り降る人体の頭部および足部を安全に受け止めて動きを規制するもので、実施例の安全規制体16はオ6図に詳細に示すように、適当な大きさのクッション17の両側にロープ18を取付け、このロープ18を取付杆15、15に結着して装着するように構成してある。この場合、安全規制体16は、たとえばネット等で構成しても良く、要は人体が衝当するのを安全に受け止めて、それ以上の動きを規制し得るように構成すれば良いものである。

なお、実施例の図面には開示していないが、所望に応じ、枠体7を適当部から折曲可能に構成して

- 8 -

機21のドラムに適当に、かつ、対称的に巻回して端部を固定してある。これによりドラムを回転すると、一方のロープ22a(又は22b)はドラムに巻き取られ、他方のロープ22b(又は22a)はドラムから繰出されるので、ドラムを正逆回転することにより、マッサージ器本体3はシーソ運動することになる。而して、上記巻取・繰出機21の始動と停止は図示しないスイッチで使用者自身が手動で行ない、また、シーソタイミングは自動切替えスイッチとリミットスイッチ又は接近スイッチ等により自動的に行なうように構成してある。

また、マッサージ器本体3のシーソ運動の速度および傾斜する角度は調整器(図示せず)等により自由に調整できるように構成されている。

実施例の健康器は上記のように構成したもので、次にその使用方法および作用等につき説明する。マッサージ器本体3を水平状態にして静止させ、指圧、マッサージを受けようとする者が滑りベッド4上に、所望の姿勢、たとえば、オ6図(イ)に示すように仰向の姿勢で横になる。この際、所望に

応じて、人体 α の頭部の下部には適当な枕を敷き、あるいは防災ズキンのようなものを頭部に装着して頭部を保護する。そして、始動スイッチを入れると、マッサージ器本体3は水平状態から、たとえば図6図において右下りに傾き始めるので、滑りベッド4上の人体 α は同図右方向へ滑べろうとする。そして、ベッド4の傾斜角度が大きくなると、人体 α はボール6を回転させながら図6図の右方向へ滑り降りて足部が安全規制体16に当り、安全に受け止められるが、人体 α の体重はスロープ板体5のほぼ全面に散在してあるボール6に掛けられてあるため、上記滑り降り中、身体のボール6との接触部側（図示では背面側）は至る所を隈なく、しごかれて指圧、マッサージを施こされる。次いで、マッサージ器本体3は図6図の右方向へ傾斜すると、スイッチが働いて一旦停止すると共に、切替スイッチが作用して巻取・繰出機21のドラムを上記と逆方向に回転させる。したがって、マッサージ器本体3は上記と逆の方向（図6図において左下り方向）へ傾

き始める。そして、マッサージ器本体3が水平状態を通過すると、ベッド4上の人体 α は図6図左方向に滑べるように作用を受け、ベッド4の傾斜角度が大きくなると、上記と同様にボール6を回転させ、身体に至る所を隈なく、しごかれて、指圧、マッサージを施こされながら図6図の右方向へ滑り降り、人体 α の頭部が安全規制体16に当り、安全に受け止められて、それ以上の動きを規制される。次いで、マッサージ器本体3が図6図の右方向へ傾斜すると、スイッチが働いて一旦停止し、ドラムを上記と逆方向に回転し、この動作を繰返し行なう。そして、図6図の右方向へ滑り降りると、この課程において、血液は頭部に多く流れ、人体は逆立ち効果の作用を兼ね受けることになる。また、上記の状態から姿勢を変え（横臥や腹這い等）ることにより、指圧、マッサージを施こされる部位を任意に変えることができる。

このように、マッサージ器本体3をシーソ状に繰返し運動させることにより、ベッド4上の人体

- 11 -

はその者自身の体重を利用して、身体に至る所を意のままに隈なく、しごかれて指圧、マッサージを施こされる。

図6図は本発明の別実施例を示すものである。説明を簡単にするため、上記実施例と同様に作用する部分には上記実施例の図面と同一符号を付して詳細な説明を省略する。本実施例はマッサージ器本体3をシーソ状に運動させる駆動手段を変形させたものである。即ち、本実施例では、マッサージ器本体3の中心部の下部両側に固設し、枢軸20で軸受体2、2に回転自在に軸支させた取付体19（一方又は両方）に大径、かつ半円状のギア24を、歯部を下向きにして固設し、軸受体2（一方又は両方）には上記ギア24より小径のギア25を回転自在かつ、上記大径ギア24と啮合させて配設してある。26はギア25に固設したブリー、27は取付ベース1上に配設したギアドモータ等のモータ、28はモータ27の出力軸に固定軸装して上記ブリー26と相対設したブリー、29は両ブリー26、28間にエンドレスに掛渡したベルトで、モータ27

- 12 -

を正逆回転することにより、ブリー28、ベルト29を介してブリー26を正逆回転し、このブリー26の回転運動を大径ギア24に伝達して該ギア24を正逆方向へ回転させることによりマッサージ器本体3をシーソ状に運動させるように構成してある。他の構成は上述した実施例と全く同様である。

なお、マッサージ器本体3をシーソ状に運動させる駆動手段としては、図示のものに限定されるものではなく、たとえば、クランク機構やピストン伸縮型のモータ、或いはシリンダ等、他の任意の機構のものを適宜選択して採用できるもので、要はマッサージ器本体3をシーソ状に運動させるように構成すれば良いものである。

<発明の成果>

本発明によれば次のような主たる効果を期待することができる。

(1) マッサージ器本体をシーソ状に運動させることにより、滑りベッド上の人体は、その者の体重を利用して、身体を全体的、かつ、自動的に、しごかれて指圧、マッサージを行なうことができる。

- 13 -

- 14 -

...プーリー、27.....モータ、29.....ベルト。

特許出願人 高 村 大 五

代理人弁理士 和 田 肇



(何)自己の体重を利用して、身体に至る所を意のまま自由に限なく、しごかせて自動的に指圧、マッサージを施すことができる。

(ハ)滑りベッド上を滑り降りる課程中において、頭部が下向になる方向へ滑り降りる際には、人体に逆立ち効果の作用を施すことができる。

4. 図面の簡単な説明

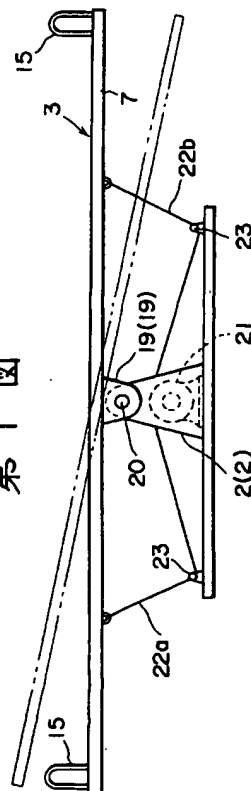
オノ図は本発明に係る健康器の1実施例を示す正面図、オニ図は同平面図、オサ図はマッサージ器本体の斜視図、オタ図は安全規制体を示す斜視図、オチ図は滑りベッドの一部を拡大して示す縦断面図、オコ図(ハ)〜(ケ)は使用状態を示す説明図、オク図は本発明の実施例を示す正面図である。

1.....取付ベース、2.....軸受体、3.....マッサージ器本体、4.....滑りベッド、5.....スロープ板体、6.....ボール、7.....枠体、15.....取付杆、16.....安全規制体、19.....取付体、21.....巻取・繰出機、22a、22b.....ロープ、24.....大径のギア、25.....小径のギア、26、28...

- 15 -

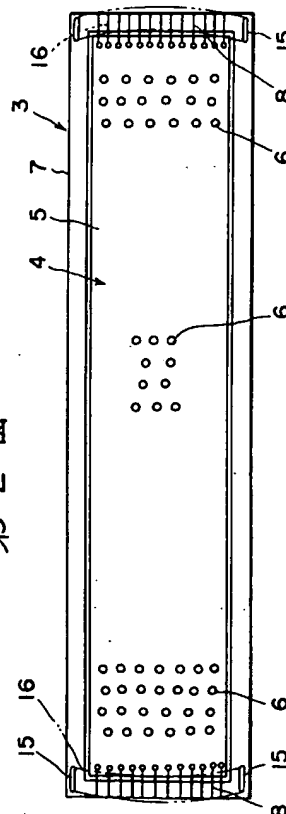
図面の浄書 (内容に変更なし)

第1図

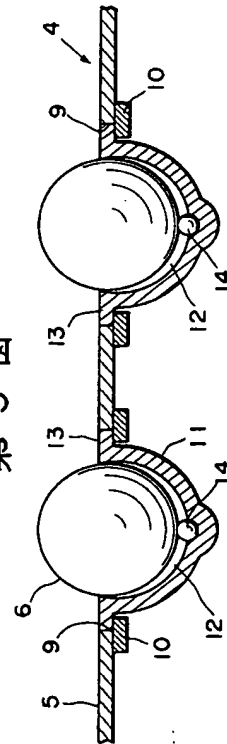


- 16 -

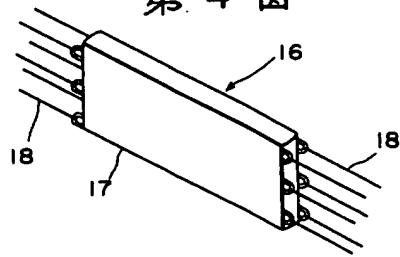
第2図



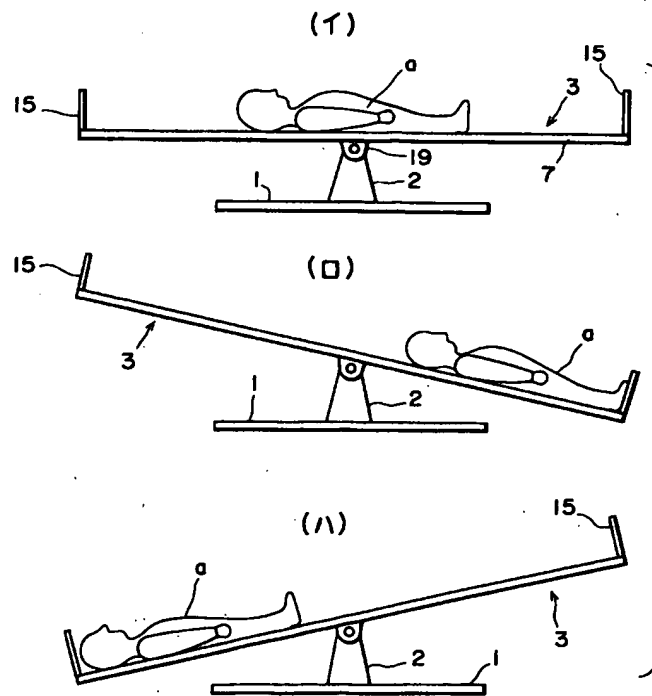
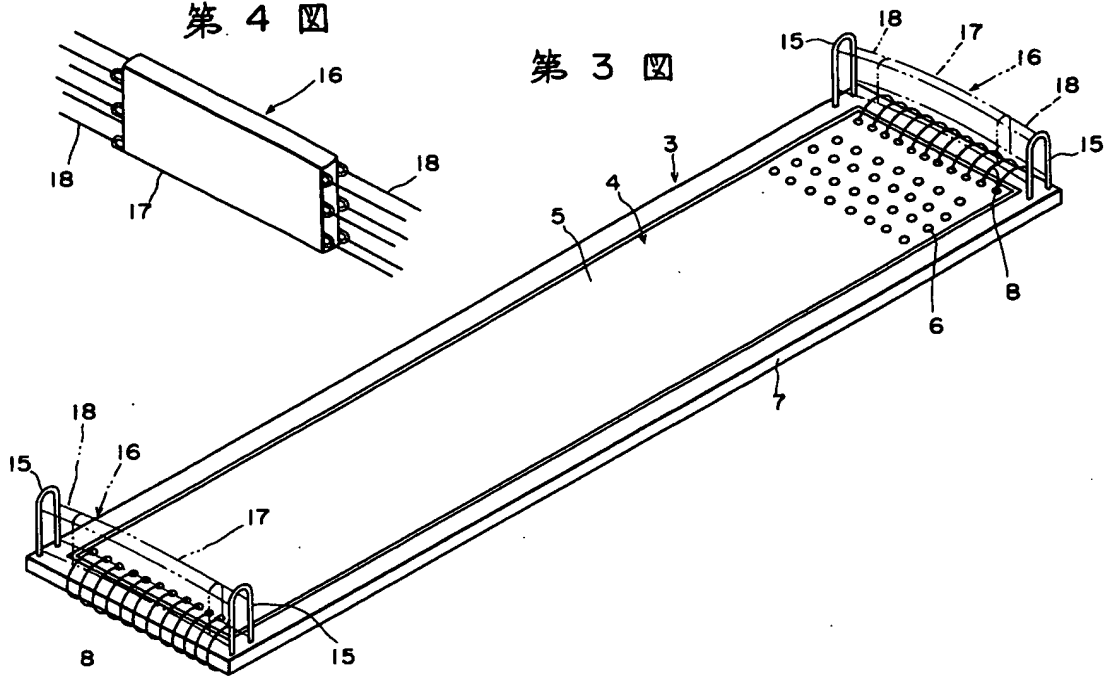
第5図



第 4 図

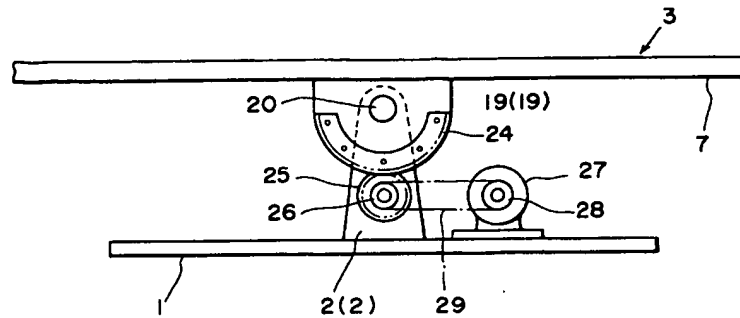


第 3 図



第 6 図

第 7 図



手 続 補 正 書 (自 発)

昭和 6 2 年 1 2 月 2 1 日

特許庁長官 小 川 邦 夫 殿

5. 補正の対象

図 面

6. 補正の内容

図面の浄書 (内容に変更なし)

1. 事件の表示

特 願 昭 6 2 - 2 9 6 3 6 5 号

2. 発明の名称

健 康 器

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 福島県いわき市小名浜上神白字館下 7 3

氏 名 タカ ムラ ダイ ゴ
高 村 大 五

4. 代 理 人

住 所 東京都墨田区錦糸 2 - 10 - 7
畑ビル 2 0 1

氏 名 (6807) 弁理士 和 田
TEL 624-7880

